



NetSkateKoban®

NetSkateKobanは、株式会社サイバー・ソリューションズの登録商標です。

ネットワーク実証実験事例：仙台市様 Sendai City



サイバー・ソリューションズはSNMP一筋の技術会社ですが、一方ではユーザーの指摘に素直に対応する柔軟性を備えており、意外でした。例えば…

お話：仙台市総務局情報政策部情報システムセンター所長 成田 啓一氏 同主査 久米井 正秀氏

仙台市は株式会社サイバー・ソリューションズ（以下サイバー社）と協同で市内ネットワークシステムの運用管理及びセキュリティ管理の強化実験を行った。仙台市総務局情報政策部情報システムセンター所長成田啓一氏と同主査久米井正秀氏に、2年間の強化実験において利用したサイバー社製品（NetSkateKoban / NetSkate Visualizer）や製品サポートに対する評価を伺った。

実験の狙い

■今回、仙台市が、サイバー社と協同で行った実験の狙いを教えてください。

■もともと本市では、物理的にも論理的にも大規模になるネットワークシステムの運用管理とセキュリティ管理をどのようにすればよいか悩んでいました。そんなときに、本市が推進する文部科学省の知的クラスタ創成事業(注1)で次世代のセキュリティ技術の研究開発を進めていたサイバー社と出会うことになり、議論を進めたところサイバー社のもつ技術と、本市のニーズには一致する点が多いことがわかりました。そこで、それらの技術をどのように適用できるかを実験することにしました。また、実験を通じて、地元の有望な技術系企業であるサイバー社が少しでも成長してくれば、本市の進める知的クラスタ創成事業の趣旨にも合致すると考えました。

(注1) 株式会社サイバー・ソリューションズは、仙台市の知的クラスタ創成事業の対象企業です。
<http://sendai-cyber.icr-eq.co.jp/>

実験の内容

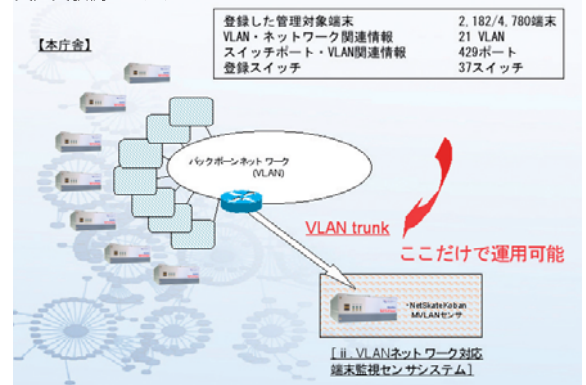
■実証実験の内容を教えてください。

■実験の目的は以下の2項目です。

1. サイバー社のネットワーク/セキュリティ管理・監視システムNetSkateKobanを、本市の市内ネットワークシステムに適用し、その効果と使い勝手を検証する。
2. 検証結果をもとにNetSkateKobanの機能改善を図り、本市市内ネットワークシステムへの効果的な導入形態等を整理する。

平成17年度は本庁舎内にある1部局の端末約200台を管理対象に、平成18年度は管理対象を本庁舎内の全部局の端末約2000台を管理対象にして実験を行いました。

実証実験例：マルチVLAN



サイバー社の印象

■今回の実験を通じて、サイバー社の技術にどのような印象を持たれたか、お聞かせください。

■NetSkateKobanは、社長のグレン氏の技術的信念を反映した製品として、「SNMPという基礎技術を限界まで活用し、顧客満足を実現すること」を製品コンセプトにしています。このように一つの基礎技術に基づいた製品は、設計にもブレがないと期待

できます。世の中には、付加価値増大と称して、不必要な機能を継ぎたして、製品を大げさにして、値段を高くしていくソフトウェアも多くあります。サイバー社が開発する製品は、そのような二流のソフトウェアとは一線を画していると期待できます。



サイバー・ソリューションズの基礎技術には見るべきものがあると思います。

実験を通じてのNetSkateKobanの成長

■今回の実験を通じた、NetSkateKobanの機能及びサポートに関する評価について、お聞かせください。

■NetSkateKobanは、今回の実験の中で次の3点が改善されたことにより、製品価値が非常に高くなったと思います。

1. インターフェースの改善
2. 不正接続監視システムと機器構成管理システムの統合
3. VLAN対応

■順々にお聞きします。第一の改善点、「インターフェース」とは具体的に。

■最初の頃のNetSkateKobanのインターフェースは、実に素っ気ないインターフェースでした。起動すると、真っ白な箱が出てくる。さあ、コマンドを打ち込んでくださいというような……。この点はすいぶん指摘してもらいました。結果、メニュー画面、操作性とまかなりユーザフレンドリーなものになったと思います。

■第二の改善点、「システムの統合」とは。

■実験当初サイバー社の製品構成では、不正接続監視とネットワーク機器構成管理とが、それぞれNetSkateKobanとNetSkate Visualizerという二つの製品に分かれていました。しかし、ネットワークシステムの実運用を考えた場合、例えば、不正接続発見時に構成管理情報をシームレスに参照できる機能が非常に便利です。そうした要望をサイバー社に伝えたところ、なんと実験中にNetSkateKobanにVisualizerの機能が統合され、新バージョン（Ver.4）として製品化されてしまいました。こうして製品の統合化を迅速かつ柔軟に図

れるという点に、サポート面でのサイバー社の魅力を感じました。

■第三の改善点、「VLAN対応」とは。

■実験当初はLAN毎にパケットセンサを設置する必要があったため、21のVLANを持つ本市のネットワークシステムにNetSkateKobanを導入するためには最低でも21個のセンサが必要という計算でした。しかし、これも実験中にひとつのセンサで複数のVLANに対応することができるように改良されました。人的、金銭的に相当な負担軽減が図れ、本市への本格導入もかなり現実的になったと考えています。NetSkateKobanに付随するハードウェアの改良も一体で対応できる点もまたひとつサポート面でのサイバー社の魅力ですね。

■サイバー社の柔軟性という点で他にエピソードのようなものは。

■Winny対策機能の追加もそうでした。実験当初には予定していませんでしたが、Winnyによる情報漏洩の問題が世の中でクローズアップされた際に、その対策の検討をサイバー社に依頼したところ、ちょうどその機能を開発中とのことで、その検証を今回の実験に加えることにしました。サイバー社は不正アクセスに対して、外部からのアクセスよりも内部からのアクセス、さらには不正を見つけるのではなく、正しいもの以外を検査するという、Winnyの動きにマッチした特長的なアプローチで、不正アクセスしている端末の自動遮断まで可能な現実的な機能を提供してくれました。

サイバー社への期待

■最後に今後サイバー社に期待することがあれば、お聞かせください。

■この2年間の実験を通じて、まず、サイバー社の技術力の高さを感じましたし、我々ユーザーの意見、要望に真摯に対応してくれるところにも好感が持てました。今後、様々な製品の開発を手掛けていかれると思いますが、やはり高い技術力を持っていても、それを真に求められる製品に結びつけていくことが非常に大事なことだと思います。その点を忘れずに、できるだけ多くのユーザーから様々なニーズを引き出し、開発につなげていくような体制の充実を図りながら活躍していった欲しいと思います。

※取材日時2007年4月。



柔軟に会話出来る会社です。対応も早い

Sendai
City
&
Cyber
Solutions
Inc.

NetSkateKoban®



株式会社 サイバー・ソリューションズ NetSkate 事業部
Cyber Solutions Inc.

〒989-3204 仙台市青葉区南吉成6-6-3 ICRビル

TEL 022-303-4012 FAX 022-303-4015 e-mail netskate-sales@cysol.co.jp

<http://www.cysol.co.jp/>